

みさと。  
とと。

# 町の主要事業構想



島根県邑智郡  
美郷町

# ～ MENU ～

## 山くじら



「山くじら」はイノシシ肉の別称です。昔、獣肉を食べることが禁忌であったことから、山の鯨の肉に言い換えていました。美郷町では、田畑を荒らすイノシシを獣害対策だけでなく、「おおち山くじら」としてブランド化して、地域振興に繋げています。

## ワイン

石見ワイナリー株式会社と共同で取り組む「ワイナリー・リゾート・タウン構想」。良質なワインを提供するワイナリーが運営する良質な滞在型リゾートの町を目指します。



## 美肌



美肌効果の高いメタケイ酸が豊富に含まれる温泉、はちみつ、どぶろく、目で見ると美肌効果ともいえる雲海など、美郷町に沢山ある美肌コンテンツを「美肌県美肌町」のコンセプトの下に展開していきます。

## バリ

美郷町は日本の自治体の中では唯一、インドネシア・バリ島の自治体(マス村)と友好姉妹都市協定を結んでいます。バリ島に特化した外国人技能実習制度に関する協定を結んでおり、今後労働力の受け入れを進めていきます。



## 石見



日本遺産に認定された「石見の神楽」、そして最も原形をとどめて現存する「石見銀山街道」など、この地域ならではの歴史・伝統の振興を図ります。

## 空の駅

配送ネットワークの維持が困難になっていくなど、将来的な物流形態の変化に対応していくため、町内の施設に発電・蓄電設備を備えた拠点を「空の駅」として整備し、将来的にはドローンを活用した買い物支援や宅配便配達の利用を図ります。



## ICT



小学校1年生から中学校3年生全員がiPadを持ちICT支援員や人型ロボットPepperと一緒に電子黒板やデジタル教科書などの最先端技術を活用した授業を行っています。また、町議会でもタブレットを使ったペーパーレス化に取り組んでいます。

# 山くじら

全国視察ランキング 16 位 / 1788 自治体 ※日経 BP 社「全国自治体視察件数ランキング2018」  
山くじらの先進的な取組みが日本中から注目されています。

## 美郷町の特徴的な取組み

### ●狩猟と被害対策(捕獲)の線引き

『猟友会と農家の利害関係は一致しない』

“猟友会” → 冬の狩猟期間にイノシシを捕獲 “農家” → 農繁期の獣害の防止  
⇒ 猟友会に頼らず、農家自らが「自分の畑は自分で守る」ために狩猟免許を取得

### ●イノシシの生体搬送

『夏場のイノシシは不味い!?!』

⇒ と殺の方法と精肉までのプロセスにより、差が出る

…精肉業者が捕獲現場まで捕りに行き、生きたまま食肉施設に搬送(と殺後すぐ放血)

### ●住民主体の地域に根付いた活動

『地元住民が楽しく続けるコミュニティビジネス』

⇒ 猪革を使った皮革製品の製造(ハンドメイド)と、獣害に強い畑づくりの実証



### 鳥獣害対策

(対策の抜本的改革)

### (夏イノシシ資源化) 資源利活用



### 地域づくり

(コミュニティビジネス)

### (地域に還元・ローカルビジネス) 定住・雇用



## 新たな取組み(産官学民の連携)

### 鳥獣害対策版シリコンバレー = 美郷バレー を核とした地域活性化

美郷バレー…鳥獣害対策に関連した人脈や情報、自然豊かな圃場に惹かれた企業や研究機関、団体が“自発的に集まってくる場”の提供(産官学民の集う環境を整備) → 各々の専門性を持ち寄り、新しい取組みが生まれる

と様々  
な協  
定  
団  
体

**産:** (株)テザック、タイガー(株)、(株)おおち山くじら、(株)クイージ、古河電気工業(株)

**官:** 三重県津市、丹波篠山市

**学:** 麻布大学、(研)農業・食品産業技術総合研究機構

**民:** NPO 法人里地里山問題研究所、(株)BO-GA

## ●取り組みの成果

美郷バレーの取組みは着実に実を結び、町の発展のために様々な方面に波及しています。

### 「麻布大学フィールドワークセンターの開設」

町の遊休施設を改修して、令和3年4月に麻布大学(神奈川県相模原市)が教育研究拠点「麻布大学フィールドワークセンター」を開設しました。フィールドワークセンターの中には、研究機能体制を充実するため、町組織の「おおち山くじら研究所」も設置し、麻布大学と連携して町獣害対策の研究を進めていきます。



### 「民間企業の営業所開設」

美郷バレー参画企業のタイガー(株)(大阪府吹田市)が、令和3年4月に、民間企業進出第1号となる「美郷バレー タイガー(株)中国営業所」を美郷町内に開設しました。

タイガー(株)は町獣害対策機器メーカー(檻、電柵)であり、美郷町と(株)テザックで開発した電柵用支柱の販売や、鳥獣被害に困っている町民の元に出向き、鳥獣害対策の勉強会を行うなど、重要な役割を担っています。



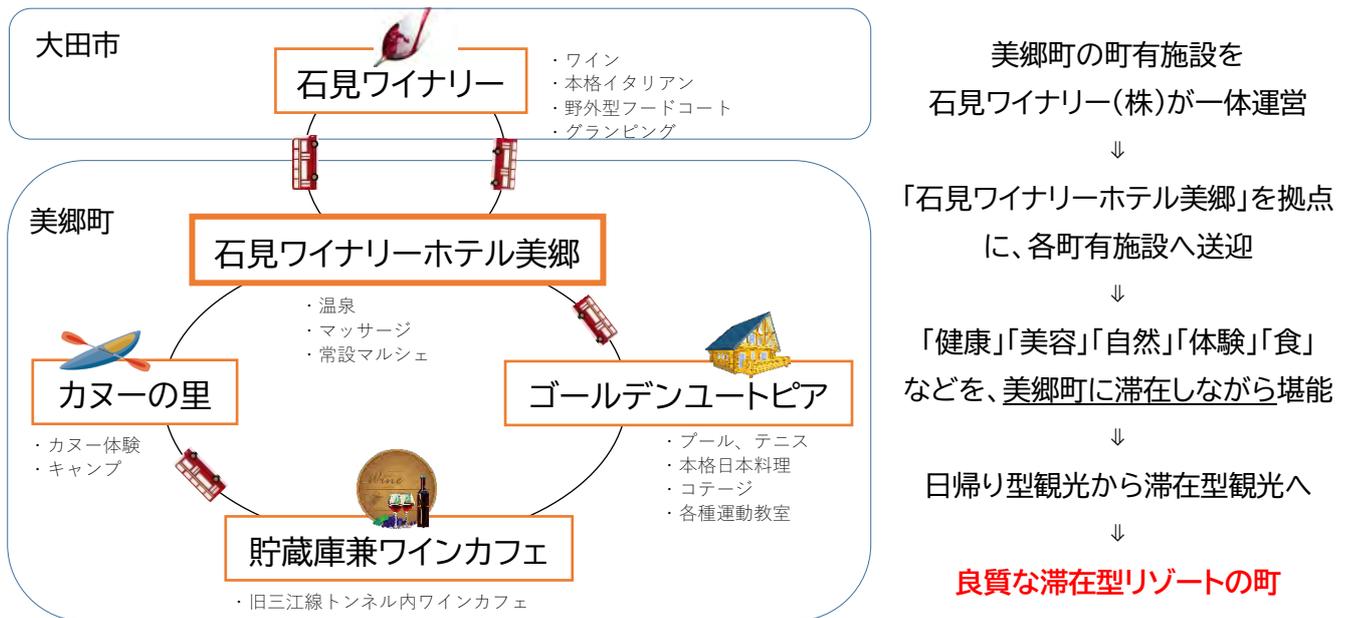
# ワイン

2021年3月にOPENした「石見ワイナリーホテル美郷」。

良質なワインを提供する石見ワイナリー(株)が、指定管理委託を受けて運営しています。

「ワイナリー・リゾート・タウン」構想を掲げ、石見ワイナリー(株)が「石見ワイナリーホテル美郷」とともに、美郷町の主要な町有施設を一体的に運営し、滞在型のリゾートサービスを提供します。

## 『ワイナリー・リゾート・タウン』構想



## ワイナリー・リゾート・タウン構想の特徴

### 地域に根差した取り組み

- ・地元産農産物や加工品などを販売するマルシェの常設
- ・地域住民が講師となるワークショップの開催

### 地域を堪能できるアクティビティ

- ・カヌー体験、カヌー制作、キャンピングカーでの宿泊(カヌーの里)
- ・溪流公園での水遊び ・地域イベントへの送迎、参加(神楽、祭りなど)

### 贅沢な食

- ・良質なワインと、地元の素材を使った本格イタリアンの提供(石見ワイナリー)
- ・本格的な日本料理の提供(ゴールデンユートピア)

### 贅沢な空間

- ・美肌に効果的な温泉(石見ワイナリーホテル美郷)
- ・旧三江線トンネルを使ったワイン貯蔵庫兼カフェ(今後開設予定)

# 美肌

日本一の「美肌県」である島根県(※)。その中でも、美郷町には様々な“美肌コンテンツ”が揃っています。

※POLA「ニッポン美肌県グランプリ 2018」第1位島根県。島根県は過去7年中1位が5回。

## 温泉

美郷町は美肌成分が湧きだす温泉が多い「美肌町」です。

美郷の温泉は天然系化粧水に含まれるメタケイ酸(※)が豊富で、コラーゲンの生成を助けて肌をみずみずしくしてくれます。

温泉名	メタケイ酸含有量	泉質
湯抱温泉(美郷町)	181mg/kg	塩化物泉
潮温泉(美郷町)	151mg/kg	炭酸水素塩泉
千原温泉(美郷町)	142mg/kg	塩化物泉

※天然の保湿成分で、肌の新陳代謝を促進し、美肌に効果のある成分。100mg/kgを超える  
と美肌成分が高いと言われている。

## 雲海

適度な湿度などの気象条件も美肌につながります(POLA 調べ)。美郷町は、中国地方最大の一級河川「江の川」が貫流し、急峻な山々に囲まれた独特な地形であり、古くから「雲海」が発生します。見える美肌効果ともいえる雲海について、鳥取環境大学や企業と連携し、令和3年3月から雲海の発生を予測する「**雲海予報**」を、美郷町公式ホームページ内に掲載しています。



## どぶろく

どぶろくは「飲む点滴」と言われており、「美白効果」「美肌効果」のあるコウジ酸や、健康に良いとされている酵母、必須アミノ酸、メチオニンなど、様々な成分が含まれています。

通常、どぶろくを販売するには、酒税法で定められた免許を取得した上で、「最低製造数量基準(年間6,000ℓ)」を超えて製造する必要がありますが、美郷町は『**どぶろく特区**』に認定されているため、この最低製造数量基準の規定がありません。そのため、美郷町では農業者自らが生産した米で作ったどぶろくであれば、自分が営む店で提供することができます。

## はちみつ

はちみつは食べる以外にも肌に塗ることで、保湿や抗酸化、美白効果があると言われています。

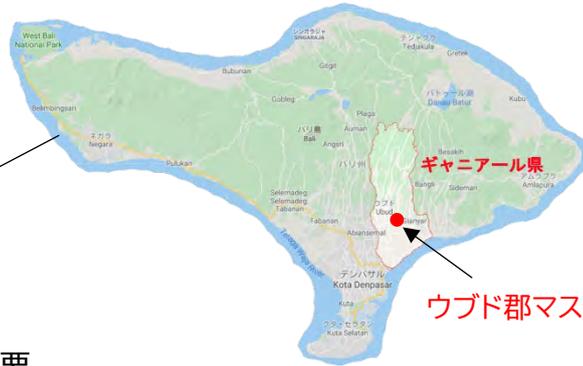
美郷町の君谷地域にある君谷養蜂組合では、担い手不足で課題となっている耕作放棄地を活用し、「花とミツバチの里づくり」を進めています。耕作放棄地にひまわりやソバ、蓮華などを植えて蜜源をつくり、旧保育所を活用して百万匹のミツバチを飼育。雄大な大自然が育んだ美郷町産のはちみつを毎年生産しています。



# バリ

美郷町(旧邑智町)とインドネシアバリ島マス村との交流は、1991年、カヌー博物館開館イベントのカヌー制作を契機に始まりました。以降、現在までの四半世紀以上の間、マス村からの留学生受け入れや地元高校の生徒によるバリ島への修学旅行など、様々な交流を行ってきました。インドネシアと友好姉妹都市協定を結んでいる日本の自治体は全国で8自治体だけであり、その中でもバリ島との協定は美郷町だけです。

## バリ島マス村とは

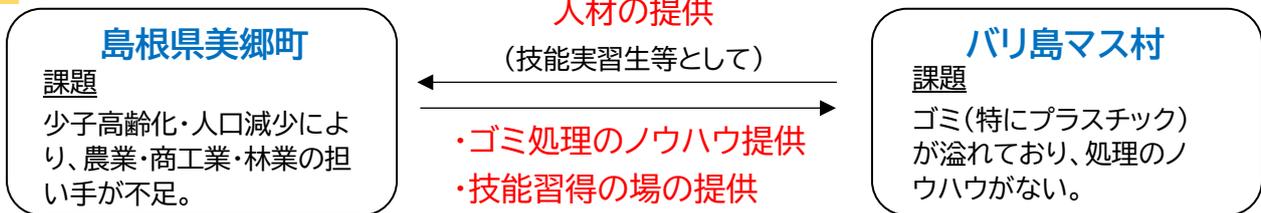


マス村  
・バリ州ギャニール県ウブド郡の南に位置する村  
・「木彫りの村」として世界的に有名

## 美郷町とマス村の交流概要

1991年	バリ島から2名がホームステイし、ジュクン(バリ島伝統の舟)を製作
1993年	友好提携調印
1996年	マス村から2名の技術研修生を1年間受け入れ
1997年	邑智高校生徒が修学旅行でバリ島へ(～2004年)
2001年	毎年マス村の高校生を3ヶ月間受け入れ(～2005年)
2013年10月	友好提携20周年に併せ、美郷町から友好訪問団派遣
2017年10月	インドネシア大使館(東京)が美郷町を訪問
2019年 1月	25周年記念行事と友好協定調印式をマス村で挙行
2019年 3月	マス村の中学生と大和中学校生徒とのスカイプ交流
2019年 5月	外国人技能実習制度に関する協定の締結
2019年 8月	在大阪インドネシア総領事が美郷町を訪問
2019年10月	インドネシア祭り(大阪市)に千原神楽団が参加(自治体参加は美郷町だけ)
2021年 4月	在大阪インドネシア総領事が新たに就任され、美郷町を表敬訪問

## 交流の進化



**美郷町のメリット**・・・友好関係にあるバリ島の住民に特定して、行政主導で技能実習生等を受け入れることにより、悪徳ブローカーなどの介入や文化、風習の違いによる住民トラブルなどを未然に防止するとともに、先手を打って対応することが可能となる。

## ガムラン楽器による地域振興

ガムラン楽器とは、インドネシアの伝統音楽を奏でる打楽器の総称で、大・中・小様々な楽器が銅や木で作られています。美郷町は全国でも数少ないガムランのセットを保有している自治体です。今後バリの音楽団の招致による国際的な交流や、小中学校での異文化理解・音楽教育への利活用、ガムランフェスティバルの開催などへ活用することにより、交流人口の拡大や地域活性化に繋げる活動を行っていく予定です。

# 石見

## 石見の神楽

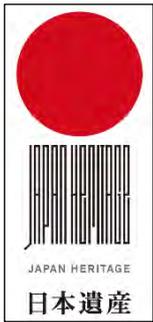
石見地域では、古くから神事として、そして地域の祭りの場や祝いの席などで神楽が舞われ、地域住民の生活に根差した伝統芸能として、脈々と受け継がれてきました。

美郷町では、150年に渡る神楽の歴史があり、現在も6つの団体が地域内外で活動を行っています。

演目には、八岐大蛇(ヤマタノオロチ)、紅葉狩、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)、羅生門など、古の神々や歴史上の人物を題材にした物語が数多くあります。神楽は、同じ演目でも神楽団によって表現が様々であり、この違いも魅力の1つとなっています。



## ■日本遺産認定(全国で83認定:2019年10月現在)



2019年5月、「石見神楽」が日本遺産に認定されました。

石見神楽は、地域の伝統芸能でありながら、時代の変化とともに発展を続けてきました。そして、現在は地域のイベントや商業施設などでも、年間を通して盛んに上演されており、そうした取り組みが評価され、認定に至りました。

美郷町では、日本遺産認定を機に町内6団体(都神楽団、千原神楽団、乙原舞子連中、地頭所神楽団、都賀西こども神楽、都賀西神楽保存会)を構成員とする「美郷町神楽連絡協議会」が設立され、神楽を通じた町の魅力発信に取り組みます。

## 銀山街道

石見銀山は、17世紀前半の最盛期、世界の産出銀の約3分の1を占めていたと言われており、大森、美郷町、三次、尾道、大阪へと流通していきました。その銀を運んだ道“石見銀山街道”が、美郷町内には約28kmにわたって走っており、最も原形を留めて現存している「やなしお道」や「森原古道」などの街道を歩くと三瓶山の雄大な景色、竹林などの美しい景観、様々な季節に咲く山野草などを楽しむ事ができます。

大森から尾道までの銀を運ぶ3泊4日の行程の中で、最初の宿場町が美郷町であり、当時の名残を残す建物なども残っています。



# 空の駅

美郷町では集落に点在する主な公民館(避難所)をドローン充電拠点と位置づけ、主に一級河川「江の川」とその支流を飛行ルートとする空の物流、「空の駅構想」を立ち上げ、中山間地域が抱える現状と、今後予想される課題に対応していく準備を進めています。

## 空の駅構想の概要

- ① 平時の施設ランニングコスト縮減と大規模停電への備え  
→ 町内の避難所に再生可能エネルギー発電設備(太陽光パネル)と蓄電設備(約3日分の蓄電量)を設置し、平時の施設電力として利用
- ② 空の物流の確保  
→ ①の設備整備拠点を利用した、ドローンによる配送の実証実験

## スケジュール

### 2019年11月

- ・環境省「二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金」採択

### 2019年12月

- ・拠点施設の整備(右図)開始

### 2020年4月

- ・実証実験に向けた準備  
配送の実証実験を行う事業者の検討

### 2020年10月

- ・ドローンによる物流に関する事業化計画策定作業開始

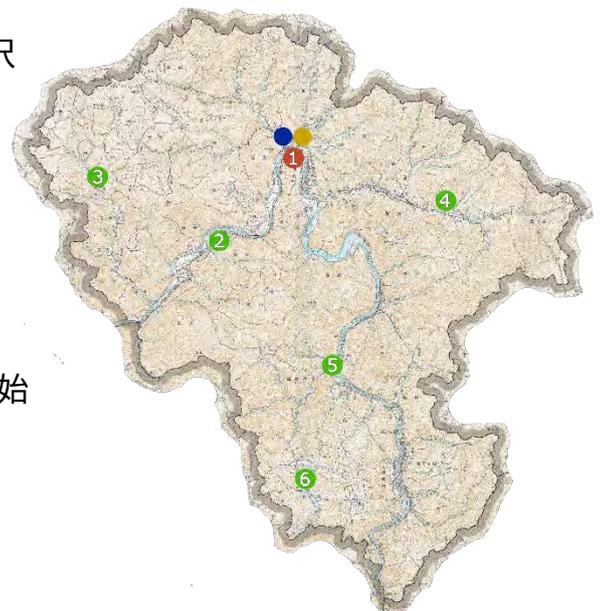
### 2021年1月

- ・町内試験飛行実施

### 2021年10月(予定)

- ・事業化計画に沿った実証実験開始

配送ネットワークの拠点及び中継点



## 各フェーズの内容

### フェーズ1(不定期運行)

- ・行政からの配布物や印刷物を公民館へ配送  
(安全に配送できるルートから実施)
- ・災害孤立地域への救援物資の配送

### フェーズ2(定期運行:将来)

- ・宅配便配送
- ・医薬品配送(法整備後)
- ・買い物支援(日用品、食料品などの拠点への配送)

● 美郷町役場
● みさと館 (多機能コミュニティセンター)
拠点 ① 美郷町防災公園
中継点 ② 吾郷公民館
③ 君谷公民館
④ 沢谷公民館
⑤ 都賀行公民館
⑥ 比之宮公民館

※美郷町及び町内の団体・企業等、官民が共同で組織する「美郷町ドローン利活用推進協議会」とも連携し、ドローンによる課題解決の方策を検討し、地域産業の活性化を図っていきます。  
平成31年2月設立、事務局:美郷町。農業、林業、商工、防災の4部会で構成。

# ICT

ここ数年 ICT の技術は目覚ましい進歩を遂げ、SNS やテレビ会議の普及など、今やインターネットは生活にかかせないものになっています。

このような状況を見据え、美郷町ではこれからの社会を生き抜くために必要不可欠な力を養うために、2014年から本格的に ICT を活用した学校教育を推進しています。

2018年:全国 ICT 教育首長協議会「**2018日本 ICT 教育アワード**日本視聴覚教育協会賞」受賞

2018年:時事通信社の「**第33回教育奨励賞特別賞**」受賞 副賞:100万円

2019年:町内の小中学校3校が日本教育工学協会(JAET)の**優良校に認定**

※島根県内での認定は美郷町だけ(2019年11月1日現在)

## 導入のねらい

1. 児童・生徒の学力向上 ～美郷で学んでよかった～
  - ・学習意欲、思考力、判断力、表現力の向上
2. 保護者・地域の意識改革 ～美郷で学ばせたい～
  - ・容易に距離を超えて様々な人と人を繋げることができる特性
  - ・教育環境的に不利であると考えられやすかった意識を変革
3. 教職員がやる気になる環境整備 ～美郷で働きたい～
  - ・学校と教育委員会、行政が一体となった環境整備の促進

## 主な取組内容

1. ICT 機器の段階的環境整備
  - ①町内全小中学生1人1台にタブレット端末整備
  - ②全教室に無線 NW、電子黒板整備
  - ③デジタル教科書を全学年5教科整備
2. ICT 支援員を2名配置
  - ・教職員への授業支援や提案
  - ・ICT 機器のメンテナンス
  - ・児童生徒への操作支援
3. 教育委員会と学校の連携(ICT 教育推進会議)
  - ・各校年間2回の公開授業実施
  - ・研修(年2回)の計画・運営
  - ・県外先進校への参加の予算補助

## 議会のペーパーレス化

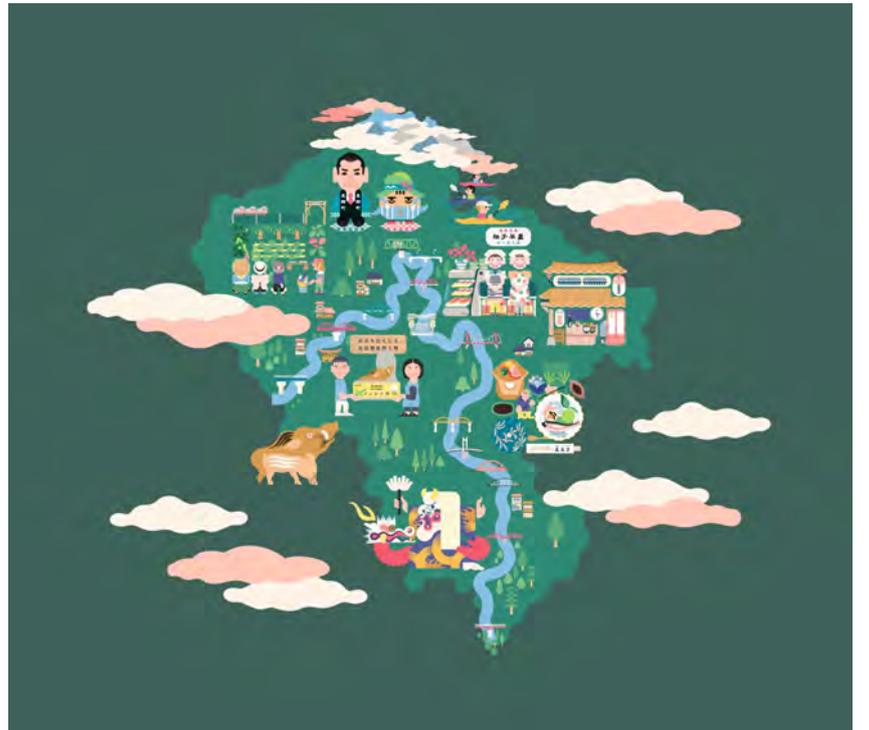
美郷町では、事務の効率化と経費の削減を目的として、平成26年度から議会議員全員にタブレットを配布し、議会資料は全てタブレットへ配信する仕組みにしています。

タブレット導入の参考にするため、これまでに全国から15自治体(延べ100人)が美郷町へ視察に訪れています。

現在は、各課にもタブレットを配布しており、庁舎内会議資料の共有や、出張時の資料をタブレットに入れて持ち歩くなど、ペーパーレス化を推進しています。







# 美郷町



---

〒699-4692 島根県邑智郡美郷町粕淵168番地  
TEL 0855-75-1211 FAX 0855-75-1218  
<https://www.town.shimane-misato.lg.jp/>

2021.4.1